

平成 30 年度 学び舎ひまわり 番外編

事例見学会 開催報告

日 時 平成 31 年 1 月 28 日 (月) 9 時 30 分～15 時 30 分

会 場 日野中央高等特別支援学校、シーダひのき工房、ジャンプ

参加者 24 名 (1 期～6 期 卒業生)

プログラム内容

地域の中ですべての人が分け隔てなくつながるための第一歩として、今回は障がいのある方との関わりについて学びました。

見学① 日野中央高等特別支援学校

施設紹介

昭和 56 年開設。知的障がい较轻い生徒に企業就労による社会的自立を目的とした職業教育等を行う、高等部のみの特別支援学校。



笹平校長、坂本先生、野口先生から学校の教育方針や学校生活、進路や地域での活動について説明がありました。卒業後、社会人として、また地域住民として生きていくために必要な技術や考え方を学びながら、学校生活をエンジョイように感じました。

その後各作業課を見学。生徒さんたち自ら作業内容の説明をして下さいました。



後半は、3 年生 7 名とのグループ討議。今後地域で出来そうなことについて意見交換しました。

- ★作品販売だけではなく、紙工品や革製品作成、一緒にダンスする等のワークショップを開催する。
- ★地域のゴミ拾いや餅つき、祭りの手伝いなど、若い担い手としても一緒に活動できそう。
- ★学校開放や地域の人と交流できる場所を設け、学校の知名度をもっと上げたらいいのではないか。
- ★個別支援級生徒の余暇支援活動に講師として来てほしい。

見学② 多機能型事業所 ジャンプ

施設紹介

障がいのある方の通所施設。企業からの受注作業や製パン販売を行いながら主体性、社会性を身につけることを目指す就労支援の事業と、創作活動や健康維持活動を中心としたプログラムを行う生活介護事業を行っている。



施設見学に続いて、ジャンプの青木施設長、日野第三町内会シルバークラブの蛭川会長から、通所者の方とシルバークラブの皆さんとのグランドゴルフを通じた交流についてうかがいました。お互いどう声をかけたら分からない状況の中、一緒にグランドゴルフをする上ではみんな平等。自然にバリアフリーな関係となり、これがきっかけとなりまちでも声をかけあえるようになりました。まずは、とりあえず一緒にやってみることがとても重要と気づいたとのこと。近隣の福祉施設や地元の農家さん、公園との連携も進み、この地区一帯で取り組めることがどんどん増えています。

見学③ シーダひのき工房、シーダ日野学園

施設紹介

シーダひのき工房：知的障がいがある方の日常生活、余暇活動、陶芸や木工、手織り等の生産的活動を支援する通所施設。

シーダ日野学園：日中の生活介護事業に加え、施設入所支援事業（夜間・休日）を実施、障がいのある方が安心して暮らせる場づくりをしている。製パン、喫茶コーナーの活動も。



障がいのある方が日常的に作業をする場、及び生活の場を見学。皆さんが元気に活動する姿はとてもパワフルで、当日はカラオケを楽しむ声が響き渡っていました。

高木施設長からのお話：こういった施設は閉鎖的になりがちですが、日頃から地域の皆さんに気軽な気持ちで来ていただき、少しお手伝いをさせていただくことが大変助かるし、利用者も喜びます。これからも地域の中の施設として、よりいい関係を築ければと思っています。

1期生 磯田さんからのお話

(地域作業所「フラワーロード」代表 ほか)



地域には高齢者施設、障がい者施設など様々な施設があります。永谷地区では、9月に福祉施設の連絡会を行い、情報交換をしました。これは地域住民から施設の皆さんに声をかけて開催したものです。

連絡会の中では、お互いに困っていることがたくさんあるものの、声をかけあえば解決することもあると改めて感じました。

障がいのある方は特別ではありません。我々と同じです。皆さんからも声をかけてもらえたらいいと思います。

内海先生からのお話



障がいのある方の就労先として、近年はサービス業など人と接しながらコミュニケーション力を上げる高度な仕事が増えています。地域が皆さんにとってよりイキイキと活躍できる場になりつつあります。

また、社会福祉法人で農業に取り組む所が出てきました。主体的、創造的な取組として農業は向いていると言えます。

障がいの種類や程度は多岐にわたるので、その方と実際に接して距離を縮めることが必要。同じ地域に住む人同士、知り合い、助け合っていくのが当たり前になるといいと思います。

学びのまとめ 集計結果

出席 23 名 回答数 20 件 回収率 87%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
13	7	0	0	0
65%	35%	0%	0%	0%

受講生の声（抜粋）

日野中央高等特別支援学校について

- ◎地域の行事などに参加し、作品の販売などしてほしい（4）
- ◎ものづくりを指導していただき、子ども会やお年寄りとの製品作りなど地域に溶け込んで共同作業やチラシ、ポスター作りを依頼できたらと思う。（3）
- ◎「ドルフィン」（ひぎり地区でやっている夏休みの個別級在籍児童、生徒の居場所）に講師として来ていただいて交流したい。
- ◎ゴミ拾いなど地域の人と一緒にやってみることはできるが、1人での参加は難しい。どこに軽度の障害があるのかと思うほど皆さんがしっかりしている姿に感心した。作品も素晴らしい。
- ◎学校休業日の活動への参加になると引率の関係からかなりの調整が必要になると思われます。
- ◎多くの技能を持っているので色々できそうだが、生徒の皆さんの負担にならないように考える必要があると思います。
- ◎学校の内容がわかったので町内会と一緒にできることがたくさんあると思います。
- ◎学校を卒業した後に支える人（先生に代わる人）が地域に必要。地域の理解と地域デビューの受け入れが大切。

ジャンプ・シータひのき工房について

- ◎地域との交流の機会を作ることが必要。参加可能にするための人的支援体制がとれるかが大きな課題。
- ◎障がいの程度の差がある方々へのお世話や支援は簡単にはできないことを今回あらためて知りました。「生きる」ことの自己肯定が基礎になり生活している方々に思いを寄せる機会となりました。
- ◎明るい雰囲気与生活していることはいいと思いました。
- ◎専門的知識、技能など必要と考えていましたが、施設長の知識なくとも活動可能とのこと、作業を通して自信、意欲を持てるようサポートしていけたらと思います。
- ◎農作業やグランドゴルフを通して人との関わりを増やせるといいと思います。
- ◎なかなか知る機会がないので、多くの方に体験してもらいたいです。
- ◎施設の成り立ちからもう少し勉強して地域としてできることを考えたいです。
- ◎施設の役割、立場などがよくわからず見学しただけ。事前に情報がほしかったです。



出発前に齊藤副校長による見送り
コケ玉の紹介



藤田校長も参加されました



作業所で焼くパンは地域でも人気！



日野中央高等特別支援学校にて

学び舎ひまわり 大同窓会の様子

同日、ウィリング横浜にて全卒業生を対象に「学び舎ひまわり大同窓会」を開催しました。
総勢 39 名、近況報告、講座の思い出話に花が咲きました。



1 期生



2 期生



3 期生



4 期生



5 期生



6 期生